



慣用句

いくつかの言葉を組み合わせ、決まった言いかたで、決まった意味を表すものを慣用句〔かんようく〕といいます。

慣用句には、体の一部を表す言葉がつくものがあります。

- 君は顔が広い〔＝知り合いが多い〕ですね。
- 犯人はとうとう口を割った〔＝白状した〕。
- 今ごろ後かいしてもあとの祭り〔＝手おくれ〕だよ。
- 話をそらしてお茶をにごした〔＝いいかげんにごまかした〕。



ことわざ

生活の中から生まれた、教訓や生きるうえでの知^ち恵^えなどを短い言葉で表したものがことわざです。いろいろなことわざを覚えて、ふだんの生活の中でも使えるようにしましょう。

- **石の上にも三年**
 [冷たい石の上でも、三年間すわり続ければあたたまる。]
 — 何事もがまん強く努力すれば、必ず成功する。
- **三つ子^{さい}のたましい百まで**
 [三歳の子どもの性質は、百才までも続く。]
 — 小さいころの性質は、大きくなっても変わらない。
- **一年の計は元旦^{がんたん}にあり**
 [その年の計画を一月一日に立てるとよい。]
 — はじめにしっかりと計画を立てることが大事だ。
- **百聞は一見にしかず**
 [百回聞いても、一回見るにはおよばない。]
 — 実際に見てみればよくわかる。